

はじめに

漢文は、もともと中国の古典です。つまり本来は外国語なので、それを日本語として読み進めるために、返り点で漢字の読む順序を示したり、読み仮名や送り仮名を付けて意味内容を捉えやすくなるよう誘導したりと、工夫が施されています。こうまでして漢文を読もうとした先人の意図とはどういうものだったのでしょうか。漢文に記述されている内容の厚みと重み、洞察の鋭さ、思慮の深さ、そして時として垣間見られる軽妙洒落な口ぶりに、おそらく魅了されてしまったのでしょう。

本書は、漢文を読解するために必要な句形や重要語、さらに漢詩を初めとするさまざまな知識をコンパクトにまとめたものです。膨大で深遠な漢文の世界へ飛び込むために、まずは本書に記されたことをしっかりと確認してみてください。場合によっては、辞書代わりとして、適宜引っぱり出してみるのもよいでしょう。大いに利用してください。

はじめに	2
本書の使い方	3

第Ⅰ章 漢文の基礎

7

一 漢文の基本構造

8

二 訓点

10

三 書き下し文

12

四 置き字

13

第Ⅱ章 重要句形

15

一 再読文字

16

二 否定形

24

三 疑問形・反語形

44

四 詠嘆形

64

五 使役形

69

六 受身形

72

七 比較形

76

八 限定形・累加形

85

九 抑揚形

90

十 願望形

十一 仮定形

第三章 重要語の用法

95 92

99

一 重要語

二 修辭法と倒置法

123 100

第四章 漢詩と思想

125

一 漢詩

二 諸子百家の思想

132 126

第五章 重要単語

135

重要単語一五〇

136

第六章 漢文の知識

145

故事成語七〇

146

王朝の推移

156

漢文参考地図

160

コラム

句形・語彙索引

162 6
・ 14
・ 84
・ 131

漢字の成り立ちと構成

漢字は、伝説では、およそ四千七百年前に倉頡（くらぎ）という人物が発明したとされています。その真偽はともかく、漢字は、甲骨文字の時代を経て、現在に至るまで長い間使い続けられてきました。漢字は成り立ちから見ると、物の形を表した「象形」、関係性を示す「指事」、意味を組み合わせた「会意」、読みと意味を合わせた「形声」、意味を転用した「転注」、音を借りた「假借」という六つに分類することができます。また構成に目を向けると、「偏」や「旁」「冠」「垂」「脚」「邊」「構」などの部首があり、その部首を持つ漢字がどういう性格のグループに属しているかを表しています。漢字を使う際、あるいは意味を考える際に、これらのことをちよつと意識してみると、イメージが膨らみ文脈が捉えやすくなるでしょう。

読解にあたって注意したいこと

漢文の読解に際して、句形や重要語といった基本事項に習熟する必要があるのは言うまでもありませんが、それでもまだ意味がよくわからないことがあります。そんな時には、筆者がその文章で何を伝えようとしているのかについて、改めて確認してみるとよいでしょう。「筆者が伝えようとしていること」といっても、それほど大げさな話ではありません。たとえば、「筆者は○○さんをほめている」とか、「△△さんが君主を諫めている」という程度で十分です。また、「筆者が伝えようとしていること」が一体どのようなことなのかに注意しながら読み進めていけば、誤読せずにもちろん大切ですが、細かい所に気を配るのももちろん大切ですが、文章全体の方向性を捉えることも忘れないでください。

